

水不足問題に立ち向かう

山添村立山添中学校 三年

中窪 真史

「これって一時しのぎと違うん。」

母とニュースを見ていたとき、口から出た言葉だ。そのニュースとは、海水の淡水化についての内容だった。なぜこんな言葉が出たのか。「海水から真水をつくっても、水不足のそもそもの原因である地球温暖化による異常気象の改善に全くつながっていないのでは。」と思ったからである。海水の淡水化に疑問を持った僕は、早速インターネットでそれについて調べた。

海水の淡水化には主に「多段フラッシュ」と「逆浸透法」の二種類がある。「多段フラッシュ」とは海水を熱して蒸発（フラッシュ）させ、再び冷やして真水にする方式である。一方「逆浸透法」は海水に圧力を加えて、真水は通すが塩分は通さない「半透膜」と呼

ばれる特殊な膜に通し、淡水を取り出す方式である。前者はフラッシュさせる際に使用するエネルギーが大量に必要で、後者は開発や整備にコストがかかるという問題をかかえている。いずれも経済的に豊かで、水源地や雨がとぼしく、海洋に面している中東の産油諸国で多く採用されている。

中東などの、気候上どうしても水がたりなくなってしまう地域では、海水の淡水化は必要だろう。しかし、もともと水がある程度あるのに、無駄使いから水不足になっている場合は、これらの方法を導入しても果たして良いのだろうか。

僕の祖母は、子供のころとても水を大切にしていたという。水道がない時代、水は井戸や川からくみあげるしかなかった。風呂に入

るには、風呂がまと井戸とを何度も往復して
すぐ大変だったという。農業用水や洗濯、
食器を洗うのにも、全て井戸から水をくんで
こなければならなかったのだ。このように水
を手に入れることが大変困難だったため、水
の存在は貴重でありがたいものだった。しか
し今の時代、水道が整備され、水は簡単に手
に入れることが出来るようになった。水が容
易に手に入れることができるようになったた
め、その貴重さやありがたさがどんどん失わ
れていつているように思う。その上海水の淡
水化が普及すれば、ますます水は大切にされ
なくなるだろう。

日本の飲食店では、店に入ると必ず最初に
水が出される。しかしこんなことをするのは
世界的にみても珍しいそうだ。水が豊富な日
本であるからこそ、こんなことができるのだ。
世界には、本当に水がなくて困っている人
たちがいる。しかし私たちは、水があるのに
それらを無駄使いすることによって、水不足
問題を引き起こしている。この問題の解決に
は、さらに水を得ようとするよりも、無駄に
使っている水をなくすことの方が大事だと僕

は思う。日本という国は水にめぐまれている。
そしてその水はあたり前の存在ではなく、本
当は貴重で大切なものであることを理解しな
ければならない。それこそが水不足問題に立
ち向かう第一歩であると思う。